

北斎が紡ぐ平安のみやび ー江戸に息づく王朝文化

すみだ北斎美術館（墨田区） 24.09.18～11.24 会期中展示替えあり



江戸時代には、平安時代の研究や古典の教育、出版の隆盛、書物流通などの背景から、宮廷の風俗や文学の絵画化が盛んになり、「北斎」や門人たちも、「紫式部」などの平安時代に活躍した人物や都の暮らしをイメージして、『源氏物語』『伊勢物語』のような、王朝文学を映画化した作品が多数描かれている。

また、さらに単に物語の場面や歌意を映画化するにとどまらず、“着物や調度に王朝文学ゆかりの意匠を取り入れた作品”も数多く描かれている。

本展は、「北斎」たちによる平安時代や王朝文学に関する作品を展覧し、「北斎」が描いた平安時代のイメージ、王朝文学の世界観とその広がりについての紹介がされていて、江戸時代に息づく「平安のみやび」を楽しむことができる。

葛飾北斎 《貴人と管女図》（部分） 絹本1幅 1839（天保10）年

貴人が、荒れた垣根越しに縁側の華やかな衣裳を着た3人の官女を覗いている場面で、官女の衣裳は御簾（みま）で、貴人の周辺の小さな草花などが非常に細かな筆使いで、真ん中の大きな樹木は洋風に描かれ、そして画面全体にまかれた「金粉」も独特な効果を上げている作品である。



葛飾北斎 《貝合わせ》

摺物（すりもの）（狂歌の作者によるオーダーで制作された、販売目的でないプライベート版画）で、貝の内側には『源氏物語』の一場面が描き込まれて、流水や貝殻の筋に空摺が見られる手が込んだ作品である。